

桜島・錦江湾ジオパークエリア拡大の取組



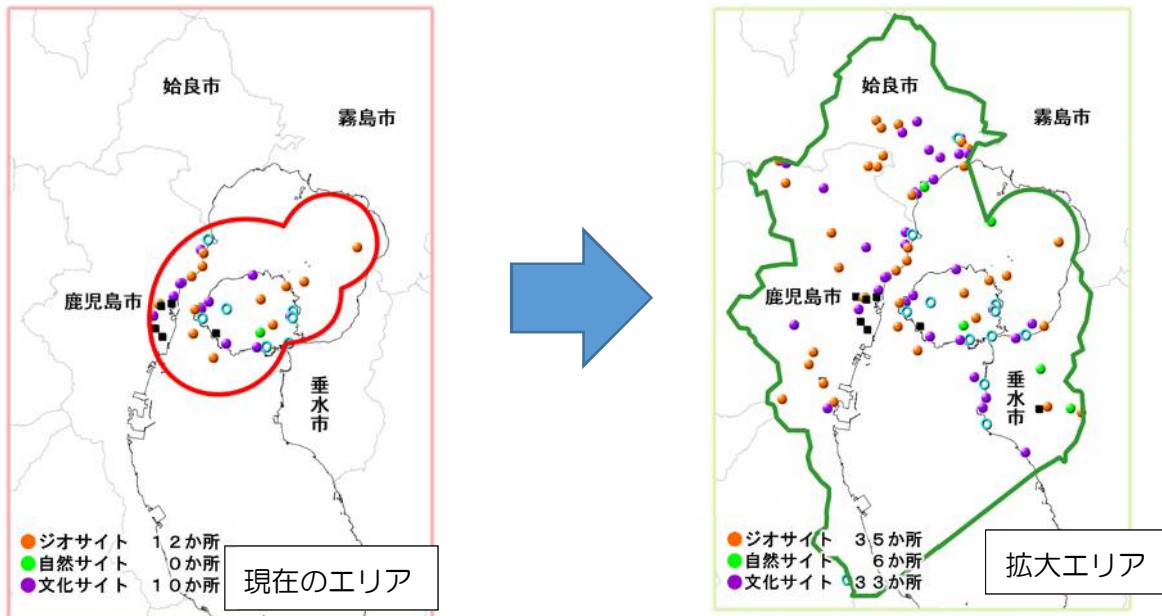
1 エリアについて



これまで、桜島を中心に半径10km円と若尊カルデラを含む半径5km円のうち、鹿児島市域を緩やかに結んだ324km²の広さ（左図赤線）でしたが、拡大後は鹿児島市、垂水市及び始良市の全域及び3市に囲まれる錦江湾の一部で1,583km²の広さ（左図緑線）になります。

2 エリア拡大の理由

- (1) 桜島と錦江湾と人々の暮らし、つながりを、より説明できるようにするため。
- (2) 始良カルデラの周辺にエリアを広げることで、更に錦江湾のストーリーの魅力が高まるため。



エリア拡大により、桜島・錦江湾ジオパーク内のジオサイト（12→35か所）、自然サイト（0→6か所）、文化サイト（10→33か所）が増え、様々なストーリーが広がります。



(3) 広がる！桜島・錦江湾ジオパークのストーリー

① 地形・地質とのつながり

拡大するエリアでは、始良カルデラの巨大噴火で噴出した火砕流堆積物（入戸火砕流）でつくられたシラスの露頭を見ることができます。

また、米丸マール・住吉池（爆裂火口）や蔵王岳（火山岩頸）など、多様な火山地形を見ることができます。



シラスの露頭



住吉池



蔵王岳



② 海とのつながり

錦江湾は深海を有する内湾で、拡大するエリアには、磯や岩礁、干潟、藻場など、様々な環境がみられ、たくさんの生物が生息しています。多様な環境が育む豊かな海のためイルカも住むことができます。



● 干潟 ● サンゴの海
○ 藻場 ○ 磯・岩礁



③ 産業とのつながり、人とのつながり

桜島の噴火は周辺の地域に影響を与えます。

桜島島内に、大正噴火の際に埋没した鳥居がありますが、垂水市にも埋没した鳥居があり、大正噴火など、桜島の大噴火で被害にあった方達に移住した地域も拡大エリアに入っています。

今でも桜島は噴火を繰り返しており、鹿児島市や垂水市には、火山灰の集積所や道路に積もった火山灰を除去する車両などがあり、人々と活火山の共生を支えています。

また、火山灰を缶詰にしたお土産「ハイ！どーぞ！！」や火山灰で魚の臭みを吸収し、うまみを熟成させた灰干しを使った「桜島灰干し弁当」など、厄介者の火山灰を活用した商品も作られています。

ハイ 灰クオリティな鹿児島のサービス！



火山と共に生きる工夫。火山灰掃除車（ロードスイーパー）や、家庭の灰を集める降灰指定置場、桜島上空の風向き予想、噴火情報メールサービスなど。

鹿児島市の火山灰専用袋。「灰に打ち勝つ（克つ）」という意味。



④ 歴史・文化とのつながり

私たちの地域には、錦江湾奥の始良カルデラがありますが、他にも加久藤や阿多などのカルデラに囲まれており、その火砕流堆積物が溶結してできた溶結凝灰岩も多く産出されます。

溶結凝灰岩は加工しやすいことから、様々な石造物に使用され、当地域では石の文化が発展しました。

世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成遺産である「寺山炭窯跡」や「仙巖園」の反射炉基礎等に使用されているほか、「関吉の疎水溝」は溶結凝灰岩の部分を活かして約7kmにおよぶ水路を造りました。

また、日本遺産「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」で歩く～」では、鹿児島の城下町や「一垂水、二蒲生、三知覧」と言われるほど美しい麓集落（武家屋敷）を有する地域であり、石垣や石塀、石倉など、溶結凝灰岩を使用した石の文化を見ることができます。

明治日本の産業革命遺産の構成資産



尚古集成館



寺山炭窯跡



関吉の疎水溝



蒲生麓